

大衆の不満感は相当

専門家の見方

北京市内の一部における戒厳令布告にまで発展した中国情勢の現状や先行き、国際情勢に与える影響をどう見るか——専門家に聞いた。

党の下部にも同調する動き

浜 勝彦氏
アジア経済研究所
動向分析部長



浜 勝彦氏

李鵬演説の内容を見て、一九七〇年代末からずっと続いている

る考え方を踏襲している、と感
じた。最重要課題である近代化
を達成するためには安定團結が
第一。それを妨げる要素に対し
ては断固とした措置をとる——
というもので、鄧小平氏の論理
だ。今回も鄧氏の強い指導力が
発揮されているに違いない。

趙紫陽総書記の動向について
だが、今回の民主化要求運動に
対する姿勢が、趙氏とほかの幹
部との間で明確に違っていた以
上、少なくとも指導部内での趙
氏の孤立は避けられない。
先月からの一連の過程で最も
意味が大きいのは、党の下部組

鄧氏の影響力 やはり大きい

鹿取泰衛氏
国際交流基金理事
(前駐ソ、元駐中国大使)



鹿取 泰衛氏

織にすら運動に同調する動きが
出てきたことだ。共産党に対す
る一般の人々の不満感の高まり
は相当なもの。いったんは旧来
などの強硬措置でうねりを鎮め
ることはできても、世論の行方
を見誤れば、もっと高いうねり
を招くことを、鄧氏ら指導部は
心すべきだろう。

ここまで事態が悪化したのに
は、不幸な偶然もあった。党機
関紙・人民日報に学生デモを
「動乱」とする社説が掲載され

は相当なもの。いったんは旧来

などの強硬措置でうねりを鎮め

ることはできても、世論の行方
を見誤れば、もっと高いうねり
を招くことを、鄧氏ら指導部は
心すべきだろう。

党の権威落ち 最悪の事態も

下斗米伸夫氏
法政大学教授
(現代ソ連政治)



下斗米 伸夫氏

ポーランドで八一年十二月、
当時のヤルゼルスキ首相が出し
た(自主労組「連帯」の運動を
封じた)戒厳令を連想した。李
鵬首相が指導権を握ったのな

耐えられるほど党基盤が強い。
それに比べ中国は、党の権威が
落ちている。今後、民主化運動
がさらに活発になってくると、
最悪の事態になりかねない。

中国再革命と 呼べる状況に

中嶋嶺雄氏
東京外語大教授
(現代中国学)



中嶋 嶺雄氏

中ソ関係は、内政干渉を約
束したばかりなので、基本的に
は変化はない。両国の経済関係
は活発に続けられよう。

共産党は非常に深刻な状況に
陥っていたようだ。李鵬首相は
短期的には軍隊で制圧できて

「金堂炎上」は休ままし
た。

も、そんなことをすると人民の
党に対する全面的な不信が広が
り、体制転覆に進む可能性もあ
る。中華人民共和国解体の危機
にもなりかねない。新政府樹
立、あるいは体制内で民主化を
強力に進めることも含め、中国
再革命と呼んでいい。経済改革
のつまずきで、李鵬首相が締め
つけをしようとしたことで、民
衆は、民主化が遠のいてしま
う、とイライラしていた。学生
たちは、すぐるところは趙紫陽
総書記しかいなかった。

人 きのうきょう

ウィーン

世紀末の欧州に賞

東京都内のホテルなどで開
催中の「ウィーン・ウィー
ク」をPRするため来日した
ウィーンの市長ヘルムート・
ツィルクさん(六二歳)の写真
が、一九九五年に同市が計画
している万国博覧会への日本
の参加を強く期待している。
たまたま見て気に入った
「男はつらいよ」のウィーン

登山のようなしんどいスポー
ツは最近の若者には人気がない
そうだが、中高年や女性の間で
はむしろ盛んになっている。し
かし、そんな世間のうつろいな
ど無関係に、七十歳代、八十歳
代になっても悠々と登りつづけ
ている人たちが少なくない。七
十代以上のそうした現役組から
七人を紹介する。

望月達夫 石間信夫 坂倉登喜子



たぶん現役最前線とみられるの
が脇坂順一(七二)であろう。七十

五歳で十二回目のマッターホー
ンに登頂し、これによって「海
外登山」も達成した。「スー
パーおじいちゃんクライマー」
の異名で、『七十歳はまだ青春』
の著者である。学生時代からの
登山歴があるとはいえ、日ごと
のトレーニングがすごい。冷水
六十度、真子が六十歳のとき
から登りはじめた。もともと野
伏せなどを毎朝何百回。電車を
鳥との出合いを求めて京都の岡
辺からはじめたのが、日本アル
プスはじめ全国の山へ。今年
は米寿記念に二人で米山(よねや
ま)新湯原くびき山塊・九九三
山に登る予定だ。最近の視力
は、女性登山家となれば、本格派
の筆頭はエーデルワイス・クラ
ブの会長・坂倉登喜子(七二)だ
ろう。女性登山教室の指導もし
ながら、月平均三回の山登り。
去年は御沢岳(上高地・二、六
四六)にも十時間ばかりで往
復した。来年はクラブ創立三十
五周年記念にブータン(山へ遠
征する。『中高年女性のための
百名山』を執筆中。



高年登山家の巻

砂川 しげひさ

悠々の青春

登った山の数となると、最近
千五百数十山をもって現役を退
いた元日本山岳会長・今西錦司
(七二)に迫っているのが、静岡市
の石間信夫(七二)であろう。月に
六、七回、今年だけで三十三回、
もう千五百には達している。重
複している山があるので、回数
では約三千三百五十回。うち海
外登山八回。対象は南アルプス
南部など地元(山)が多い。
登った山も多いし、それぞれ

しの一週間

【15日】朝、上野をた
ち、盛岡から車で青森の青荷
温泉へ。夕食後十和田プリ
ンスホテル泊。【16日】奥入瀬
谷を経て弘前へ。午後2時、
ホテル法華倶楽部で知人の弘
大医学部江教授就任十周年
記念の講演。同ホテル泊。
【17日】帰京。午後3時、
日本記者クラブでペンクラブ
理事会。【18日】郵便物整理
や「折々のうた」執筆。外来
語表記について文芸家協会国
語調査委員会が出す要覧書の
草案を練る。

大岡 信さん(58)
日本ペンクラブ会長



【17日】午後
6時すぎ、東京
・有楽町マリオ
ンで「アエラ」
創刊一周年記念
パーティー。
【18日】午後1
時半、日本女子
大で「日本の詩
歌」について講
義。新刊『日本